

北の森林 国有林



北海道森林管理局



蒼く輝く氷柱「七条大滝」(苫小牧市)



国民の森林・国有林

地球を守る木 みんなの財産国有林

日頃の研究成果を一堂に

平成19年度
北の国・森林づくり技術交流発表会



→野幌森林公園での市民植樹における、苗木の遺伝的多様性への配慮の実態を調査発表し、生物多様性部門・最優秀賞を受賞した石狩地域森林環境保全ふれあいセンターの豊田さん



北海道森林管理局では、森林・林業に係る技術情報等の交換を図るため、平成二十年一月二十四日(木)～二十五日(金)同局大会議室において、二百名近い入場者を集めて「北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催しました。

冒頭、山田壽夫北海道森林管理局長より、「この発表会が、参加された皆様方の情報交換の場となり、北海道全体の林業・林産業の発展に寄与できれば幸いです。」とのあいさつがあり、二十四日には、森林管理署をはじめ、自治体、高校、NPO等から二十九課題の一般発表、二十五日には、森林管理署からの受賞発表一課題、試験研究機関から四課題の特別発表が行われました。



↑GPSとGISで情報を集約した学校林管理の方法を発表し、高校部門・最優秀賞を受賞した帯広農業高校の浅野さん(中)と斉藤さん(左)



↑市民を対象として展開した森林ボランティア養成講座の事例を発表し、森林ふれあい部門・最優秀賞を受賞した駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンターの窪田さん



↑指導林家と連携した森林づくりの事例を発表し、森林技術部門・最優秀賞を受賞した北海道空知森づくりセンターの山畔さん



↑人工的に作った土壁に営巣したカワセミの生態などを調査、発表し、高校部門・優秀賞を受賞した札幌旭丘高校の山本さん(右)

また、今年「生物多様性部門」が新設された他、初めて普通科高校からの参加もあり、環境教育等に係わる課題が行なわれました。

今年度は、京都議定書の約束期間の初年度で、七月には、北海道洞爺湖サミットの開催が予定されるなど、環境問題が大きな関心を呼んでおり、(財)北海道環境財団理事長の辻井達一氏から「北海道の森林にとって、生物多様性とは何か？」と題した特別講演も行われました。

また、今年「生物多様性部門」が新設された他、初めて普通科高校からの参加もあり、環境教育等に係わる課題が行なわれました。



パネル展示も行われました

最優秀賞

- ・森林技術部門「指導林家と連携した森林づくり」(北海道空知森づくりセンター)
- ・森林ふれあい部門「ボランティア養成講座「森林づくり塾2007」の取組について」(駒ヶ岳・大沼森林環境保全ふれあいセンター)
- ・高校部門「GPSとGISを活用した学校林管理と森林実習」(帯広農業高等学校)
- ・生物多様性部門「市民参加型植林における遺伝的多様性配慮の実態について」(石狩地域森林環境保全ふれあいセンター)

優秀賞

- ・森林技術部門「コドラート法によるエゾシカの植生食圧調査について」(知床森林センター)
- ・森林ふれあい部門「三笠市の森林資源における二酸化炭素の森林吸収量等に関する試算について」(三笠市役所)
- ・高校部門「人工的に作った土壁に営巣したカワセミの生態調査と行動範囲」(札幌旭丘高等学校)
- ・生物多様性部門「にしんの森再生プロジェクト」(留萌南部森林管理署)

特別賞 森林技術センター/上川南部森林管理署/釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター

奨励賞 体験林業年輪クラブ/榎姥沢組・森林航測研究・寿都町役場/黒松内岳ブナ林再生プロジェクト実行委員会/札幌藻岩高等学校/岩見沢農業高等学校



◀登山のマナー啓発活動を行うグリーンサポートスタッフ。
入山者とのコミュニケーションも大切にしています。

山岳保護活動 最前線からのレポート

グリーンサポートスタッフ 事業報告会

→会場では各地からの報告や意見交換が行われました。
↑登山道の現状などを報告するGSS。



グリーンサポートスタッフ
（＝森林保護員、以下GSS）は、国有林野（天然生林）の管理水準を向上させるために入林者へのマナー啓発活動や、登山道のパトロール等を専門に行う職員です。

北海道森林管理局では、平成十八年度からGSSを新たに採用し、「グリーン・サポート・スタッフ事業」を行っています。

事業二年目となる今年度は、知床世界自然遺産、大雪山、札幌近郊の三地域に加え、利尻、礼文、暑寒別、留萌、夕張山地、阿寒・別寒辺牛、ニセコ山地

及びブナ北限地帯の十地域を対象として、五月上旬から十一月下旬の期間内に三十四名のGSSが活動しました。

一月二十三日（水）～二十四日（木）の二日間、北海道森林管理局において、各地で活動するGSSによる報告会が開催されました。

会場では、GSSから登山者に対する植生保護の啓発、携帯トイレ等の利用の呼びかけ、廃棄物の不法投棄監視、登山道整備などの活動事例、また、入り込みの集中等に伴う植生や歩道の荒廃、糞尿の放置や不法投棄の防止といった問題根絶の難しさなどが報告されました。

続いて行われた意見交換では、関係団体との連携強化、活動範囲・人員の拡充、増加する外国人観光客への対応などについて話し合われ、引き続きこの事業を進めていくにあたって貴重な知見が得られた報告会となりました。

なお、GSSの活動についてはホームページに掲載していますのでぜひご覧下さい。

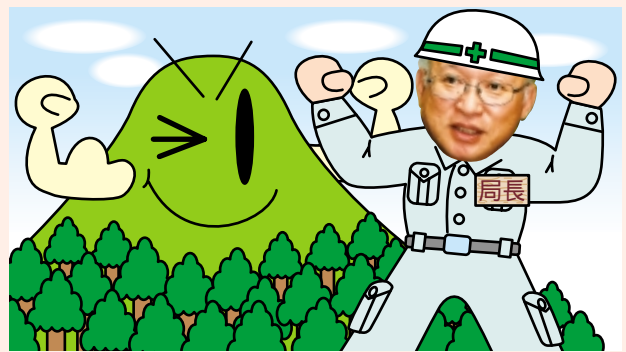
（国有林野管理課）

→講義では局長自らが北海道の木材戦略の壮大な展望とコスト意識の重要性を語りました。



「北海道の木材戦略」 を熱く語る

北海道森林
管理局長



十二月十二日（水）、山田局長が業務担当職員らを対象とした「国民の森林」推進研修で、「北海道の木材戦略」と題して講義を行いました。

講義では、木材価格の推移の中で、原木、製品の各供給段階でのコストの低下に比較して山元立木価格が激しく落ち込んだ国産材の厳しい現状の説明がありました。

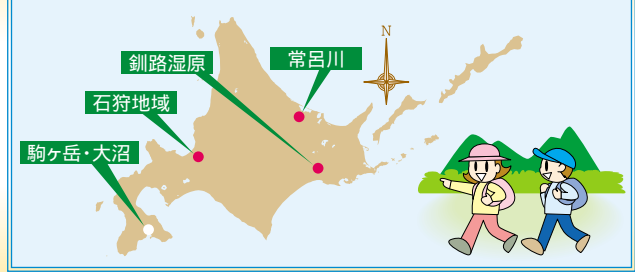
また、原木、製品の各供給段階のコストを抑えることによって、市場競争力のある商品作りが可能となり、このコストダウンで発生した利益を森林に還元することにより、健全な森林づくり、ひいては活力ある木材産業を目指すという壮大な展望と、コスト意識を高めることの重要性が示されました。

具体的な数値や詳細なデータ分析により分かり易く説得力のある講義は、局長の北海道林業の再生に対する熱意が受講生に伝わり、「今後の指針にしたい」といった感想が寄せられるなど受講生に大きなインパクトを与えることが出来ました。

（総務課）

森林環境保全ふれあいセンターだより

森林環境保全ふれあいセンターは、国有林をフィールドとした自然再生や生物多様性の保全、森林環境教育などの活動を支援しています。



- ↑気分は狩人・・・当たるかな^^?
- ▶甘酸っぱさが口いっぱい広がるヤマブドウ試食
- 今度はパチンコ、百発百中だ^^v
- 「みんな、あれを見て！」新発見がいっぱいです

スノーシューで雪道ザックザック 冬の森林教室と弓・パチンコでの的当てを体験

常呂川森林環境保全ふれあいセンター



一月九日（水）、生長の家・冬季青少年練成会の皆さん三十名と北見市富里地区の富里林区において、冬の森林学習と弓・パチンコを使った的当て体験を行いました。

これは昨夏、同会と行った森林・林業体験学習の冬季編として引き続き実施したものです。

今回は、「冬の森林世界に触れながら、山を育てることの意義を理解する」ことがテーマです。

参加者の皆さんは、早速、スノーシュー（西洋かんじき）を職員の説明を受けながら履きました。

そして、三列になって新雪をザック、ザックと踏み、その感触を確かめながら森林体験現地向いました。

途中、要所所では職員から「冬の森林世界」について説明を行い、参加者の皆さんからは、「あの木の皮の上についているものは何？」、「この白樺の肌は何故赤いの？」などの質問も飛び出しました。

また、今回のテーマでもある、「木を育てる話」の場面では、子どもたちが自ら下刈や除伐作業の必要性について話し出し、森林・林業への感心の高さを感じました。

さらに林道を進むとヤマブドウがあり、早速、採取して試食会、甘酸っぱい山の幸を口いっぱい味わいました。

川の水温や気温を測定したり、雪がもつ保湿度の働きも学びました。

トドマツの下ではその葉の香りを嗅いでもらい、樹木が発する物質は私たち人間の健康に良い効果があることについて説明を行いました。

野外での森林体験の最後に、弓・パチンコを使つて的当てゲームを行いました。

的に当たったり外れたり、ゲームの進行とともに周りからは盛んな拍手が送られ、大人は昔楽しんだ遊びにタイムスリップ、子どもたちは新しい遊びに夢中でした。

その後、一行は室内に戻り、野外学習での「ふりかえり」を行いました。

ここでも子どもたちは、活発に手を挙げて発表するなど、楽しい雰囲気の中で、樹木の果たす役割や木を育て森林を守ることの大切さを確認し合いました。

参加者の皆さんからは「今日の研修に来てとても楽しかった」などの感想が聞かれ、寒い野外での森林案内ではありましたが、私たちの気持ちを温かくしてくれる森林教室となりました。

（石橋 所長）

センサーカメラで 野生動物をパチリ

動物たちが歩き回る
夜の森林公園

石狩地域森林環境保全
ふれあいセンター



↑家族で散歩中？のアライグマは特定外来種
←森林再生への影響が心配されるエゾシカ

当センターでは、野幌国有林（江別市ほか）において進めている「野幌森林再生プロジェクト」の一環として、野生動物のモニタリング調査を実施しています。

手法は単純で、赤外線センサーを付けたカメラにより、夜間に活動する動物を自動撮影するというものです。

一見、簡単そうに見えますが、聞くところでは大違い。初めて実施した昨年度はセンサーの設定がうまくいかず、設置した十二個所のうち半分が誤作動。自動撮影とは言うものの、手動による設定作業如何で成否が決まることを痛感しました。

今年度は、慎重を期して本撮影と同一条件での「予定演習」を行うことから本撮影を実施。結果は上々。ノウハウが身につけてきたようです。

撮影結果を若干紹介しましょう。撮影枚数が最も多かったのはキタキツネで、野幌の最も代表的な動物と言えます。次が特定外来種のアライグマ。また、森林再生への影響が大きいことから最も注目しているエゾシカは、延べ

二ヶ月の撮影期間に八枚だけでしたが、メスの存在が確認されたことから今後の増加が気になるところです。

他にもコウモリ類、ネコ、フクロウ、昼間はまず目に見えないヤマシギも撮影されています。

これらのデータは現在取りまとめ中ですが、当センターでは成果を関係機関にも提供していかうと考えています。

例えば、酪農学園大学の研究者は、当方のデータを見てエゾシカの本格調査を決定。十一月にはライトセンサー（一）が実施されました。また、現地でアライグマ駆除を実施中の環境省とも双方の持つ情報を共有していく方向で調整を開始しています。

ともすれば関心が樹木に偏りがちな国有林職員にとつて、野生動物調査は、視点を生態系全体へ広げる良いツールではないでしょうか。近い将来、当センターが指導役になれるよう研鑽を続けたいと思っています。

（荻原 所長）

釧路湿原上流部 エゾシカの動向を キャッチ

釧路湿原森林環境保全
ふれあいセンター



↑センサーカメラを林内に
取り付け中
←ときには真っ白なエゾキ
ウサギもパチリ

道東地方ではエゾシカによる農林業への被害が多数発生し、釧路湿原上流部の雷別地区の自然再生事業地においても被害が懸念されています。

現在、北海道のエゾシカ保護管理計画に基づき、全道でライトセンサー（一）による生息数調査が行われています。

ここ雷別地区においては、今のところ採食圧は高くありませんが、調査を行ったところ、昨年度と同程度の生息数が確認されました。

また、自動撮影装置による定点写真撮影も行っており、十二月に行った一ヶ月間の調査ではエゾシカ（メス）四頭、エゾキウサギ一羽が撮影されていました。

これらの調査については防除対策の必要性等を検討するため、今後も継続してデータを収集していくことにしています。

（渡辺 自然再生指導官）

夜間に決まったルート車を低速で走行し、道の左右両側をスポットライトで照らしてシカを探して、その数や性別、年齢などを調べる調査。

上川北部森林管理署にお世話になってから二年が過ぎました。

歳のせいか一年が早い感じがするのは私だけでしょ

か。 雑感ということで思うままに記させていただくと、今の世の中、政治、経済はもとより、事件、事故等様々な出来事が起きています

が、今年はどういった年になるのか皆目検討がつかません。 二十一世紀は「環境の世紀」と言われて久しいわけですが、世界中で頻発する異常気象による災害等は地球温暖化が原因と言われ



思惑でなかなか足並みが揃わないようで、このままでは取り返しのつかないことになりかねないのでと私なりに不安を感じるこの頃です。

また、昨今、原油価格の異常な高騰によるガソリン、灯油などの価格上昇が深刻な問題となつていますが、そうし

た中、当署管内にある下川町では、独立行政法人 森林総合研究所などの関係機関と連携し、石油に変わる代替エネルギーとして「ヤナギによるバイオエタノール」の研究開発の取り組みや、更には地元森林組合が企業等との共同研究で「間伐材、端材のチップを原料としたバイオコーク」の実証実験プラントを立ち上げるなど、小さな町ですが時期を得た環境に優しい先進的な取り



組みとしてその成果が期待される

ところ。 森林はこれまで木材の供給に主力をおいてきたところですが、近年は地球温暖化防止・山地災害の防止・水源のかん養・森林レクリエーション等々、地球を護る・環境にやさしい資源として国民の期待は大きく、それだけに地域（国民）の森林を預かるものとして、その責任の重さを痛感しているところです。そ

子どもたちの歓声が森の中に響く楽しい森林教室



ヤナギ見本園の植栽 下川町班溪



アスピルスノーを思う存分に！ ビヤシリ自然休養林



子どもたちとの植樹活動 防風保安林を育てます

のためには効果的な森林整備を求めつつ、地域と連携したイベントの取り組みや森林環境教育の拡大等について、回転が遅くなった頭を捻っていると

← 運送現場での取組を講義するニセコ運輸 魚住氏



運送のプロ招き 交通安全講習会

【後志署】十二月十二日（水）、当署の全職員を対象として、ニセコ運輸（有）魚住 隆氏を講師に迎え、交通安全講習会を開催し、「運送会社における交通安全対策や車両事故防止の取組」などについて講義していただきました。 運転免許証更新時講習の講師もされている同氏の講義は、経験に満ちた分かりやすいもので大変好評でした。 当日は、安全祈願祭も行い、職員一同、労働災害及び交通災害の未然防止を改めて誓い合う有意義な一日となりました。

（後藤 次長）



←「こっちはもう宝物見つかったよ！」

←「宝物はどこだ〜??」
測定の器械を使って雪の中に埋められた宝物を探しました

→「ここを掘ってみる〜!」
ちゃんと測量したから、ここに埋まっているはずなんだ



子どもたちと一緒に楽しみながら 森林のことを伝えていきたい



空知森林管理署

空知森林管理署では、子どもたちに楽しみながら森林のことを学んでもらおうと、地域に根ざしたいろいろな取り組みを展開しています。

森でのしごと体験講座

冬休み中の子どもたちと森での遊びを通して森に親しんでもらいながら森林官の仕事などを体験してもらおう「森でのしごと(フォレストスター)体験講座」を二回にわたって開催しました。

森の恵みで草木染め

十二月二十六日(水)、岩見沢市内五つの小学校から集まった三十名の子どもたちと、NPO法人「利根別の森ネットワーク」との連携で、森の恵みを使っての草木染め体験を行いました。

水洗いの工程では染め物が直ぐに凍ってしまいうハブニングもありましたが、それぞれ個性豊かな作品ができあがりました。



→私たちの草木染め素敵でしょ!!

測定の器械で宝探し

一月十日(木)には前回の参加者に加え、岩見沢郷土科学館との連携による参加者も加わり、総勢四十名で岩見沢市民の憩いの森「利根別自然休養林」で野外実習を行いました。これは、スノーシュー

(西洋かんじき)を履き、予め雪の中に埋められた宝物(?)を測量しながら探すという「実習」です。マイナス五度の厳しい寒さの中、各チームとも懸命に「宝の地図?」を手がかりに測量し、宝物を掘り当てて大喜びでした。

学童クラブで楽しい工作と紙芝居

十二月十日(月)、学童保育所の「大空クラブ」で、小学生の皆さんと松ぼっくりなどを使った工作教室と平成十六年の台風被害を題材にその森に棲むリスのリスキーを主人公にした紙芝居「はつぱの手紙」の上演会を行いました。

紙芝居では、子どもたちは物語に静かに聞き入り、「森林の再生が必要なんだ」というリスキーからのメッセージを感じてくれたようでした。(杉尾 森林ふれあい係長)

工作では、木の台にドングリや松ぼっくり、ビーズなどを飾り付け、とてもかわいらしい作品を作り上げ、みんな満足顔でした。



→どんなふうになろうかな



←こんなに素敵な作品ができました

キラリと光る標津の森から

根釧東部森林管理署
川北森林事務所 森林官
和田隆太郎

豊かな自然環境に抱かれて

川北森林事務所は、「萌える海と大地、さわやかな交流郷」をテーマとした町「標津町」の市街地中心部より西に八キロに位置し、約一万六千餘の国有林を管理しています。



平野部に広がるカラマツの防風保安林

同町は面積の六九%を森林が占めており、中央に流れる標津川をはじめとする豊かな自然環境の中、酪農と漁業を基幹産業として発展してきました。

広大な景観をバックに

当森林事務所部内の森林の特徴としては、山岳林ではトドマツなど北海道を代表する樹種を中心に広大な景観を見せてくれます。

また、それらの天然林に挟まれた人工林がモザイク状に展開しており、これらはさながらじゅうたんに敷き詰められたように見えます。

暮らしを守る
格子状防風林

次に平野部では、牧草地の間を格子状に配置された防風保



森林事務所の看板を前に（手前が本人）

雄大な国有林に囲まれた、秘境温泉「川北温泉」を紹介します。

この露天温泉は道内の人

安林が広がっており、厳しい気象条件から農作物を守り、冬期間の地吹雪時の視界確保など地域の生活環境を守る役割を果たしています。

林内にはカラマツ、トドマツなどが植栽されており、格子の一区画は縦一八〇センチ、横五四〇センチとして設計されています。

本来の役割の他、四季折々にその姿を変えた景色を楽しませてくれ、特に紅葉を迎える時期は、黄金色に輝くカラマツ林がとても色鮮やかで、一見の価値あり！、お薦めです。

癒しの温泉スポット

さてここで、当森林事務所の誇る癒しの観光スポット、

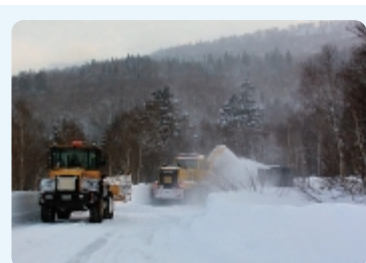
気ランキングでも常に上位で、リウマチ性疾患、疲労回復等様々な効能があるそうです。道内外から数多くの観光客が入浴に訪れ、森林浴しながらの湯浴みを楽しんでいます。

みなさんも、癒されに来てみませんか？

寒さに負けず安全第一

現在、当森林事務所では除伐作業を実行中で、植栽木に絡みついているツルや、植栽木の生長を阻害する不整形な広葉樹等を除去しています。

冬の寒さに負けず「安全第一」を掲げ、現場の職員三名とともに、怪我をせぬよう一丸となって、作業を進めていきたいと考えています。



←朝里峠付近で行われた雪の採取作業

国有林の真っ白な雪をさつぼろ雪まつりに

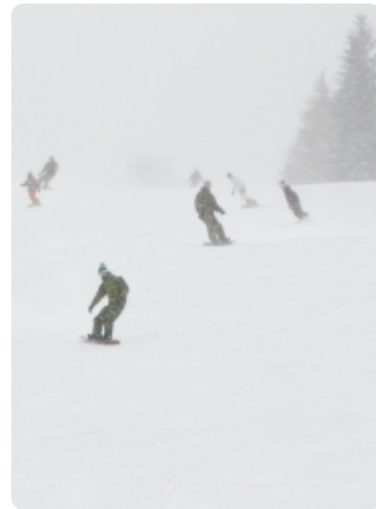
【石狩署】二月五日（火）から十一日（月）まで開催される冬の祭典、「第59回さつぼろ雪まつり」の大雪像製作に必要な真っ白な雪を定山溪国有林から提供しています。

今冬の市内の降雪量は例年より少なく、雪集めに苦労していると札幌市観光部局からの協力要請があり、朝里峠付近からダンプカー1百四十三台分の雪を提供しました。

この地域の雪は、真っ白で雪質がとても良いことから、雪まつりの期間中、すばらしい雪像に生まれ変わって、皆さんの目を楽しませてくれることと思います。

（杉村 流域管理調整官）

レクリエーションの森 紹介 北大雪スキー場



【網走西部署】北大雪スキー場は、大雪山系の北端にある紋別郡遠軽町白滝の天狗岳（一五五三メートル）の中腹に位置し、レクリエーションの森・野外スポーツ地域（三三三三メートル）に指定されています。

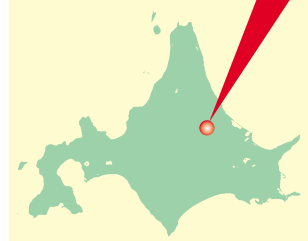


同スキー場は、古くから道内でも「なまら最高！」のパウダースノーで知られていましたが一時閉鎖となっていました。

しかし、その後、旭川・紋別自動車道の延伸や同スキー場の再開を望む多くのファンからのファンからの復活や、古くからのファンの復活や、上質なパウダースノーの魅力で新たなファンを獲得し人気を集めています。

最大斜度三三度のチャレンジコースや最長滑走距離四〇〇メートルの雄大なパノラマコースは滑り応え十分、このほかファミリー、ナイスカップル、ダウンヒルなど、コースバリエーションに富み、スキー、スノーボード、クロスカントリーなどを春の連休時期まで楽しむことができます。

北大雪スキー場



また、夏季には天狗岳登山やマウンテンバイクを楽しむこともできる通年型のレクリエーションの森となっております。このスキー場の再開とともにさらに多くの白滝・北大雪ファンが増えることが期待されています。

なお、今シーズンの営業期間は五月六日までを予定しています。（一月十五日～二月二十九日の平日は営業休止です）

ACCESS

アクセス

自家用車

旭川から R39～273～333経由 85km
北見から R39～242～333経由 100km
網走から R333経由 140km

JR

旭川から
石北本線で1時間30分
北見から
石北本線で1時間30分
白滝駅で下車しタクシーで25分



写真提供：札幌市



↑雪上車で
ホワイテクルージング



←山頂のアイステラス

魅力アップ！藻岩山 アイステラス誕生

【石狩署】天然記念物に指定されている札幌市の藻岩山原始林（北斜面が国有林）では、北海道森林管理局においてレクリエーションの森リフレックス対策重点実施地区として取組強化を図っています。

また、札幌市においても、藻岩山魅力アップ構想」の策定に向け、フォーラム等を通じ、多くの市民から意見を聴取し、有識者による懇談会を設置、検討を重ね今年度公表しました。

今冬、その一環として、藻岩山山頂に北海道三大夜景の一つ「冬の札幌夜景」が誕生できる「アイステラス」が誕生しました。

この他、迫力満点の雪上車体験、ホワイテクルージング」のアトラクションも楽しめます。

今後も、当署では「藻岩山の日」（五月三十一日）をはじめ、各ソフト事業等の展開への協力について、更に札幌市等と連携を深めていきたいと考えています。

ぜひ、藻岩山へ！
（杉村 流域管理調整官）

皆さんの声を森林づくりに

国有林の森林計画(案)公告縦覧中



国有林野事業では、将来にわたってその使命を十全に果たし、開かれた「国民の森林」を実現するための取組を推進しているところです。この取組の一環として、現在、北海道森林管理局では地域ごとに国有林野の管理経営に関する基本的な事項を定めている国有林の地域別の森林計画の変更計画(案)、地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画

画(案)等を策定しているところです。

これらの策定にあたっては、広く国民の皆様からの意見をいただいております。

計画(案)等の概要についてはホームページ

(<http://www.hokkaido.koku.yurin.go.jp/kyoku/>)でもご覧いただけます。

一 縦覧場所
左記のとおり

二 縦覧期間

平成二十年二月四日(月)から三月五日(水)まで

(縦覧時間は、土、日及び祝日を除いた平日の九時～十二時、十三時～十七時まで)

三 意見書について

意見のある方は、北海道森林管理局長に意見書を提出することが出来ます。

この様式は縦覧場所とホームページ上に用意しています。

意見書の提出先
ア 郵送の場合
千〇六四―八五三七

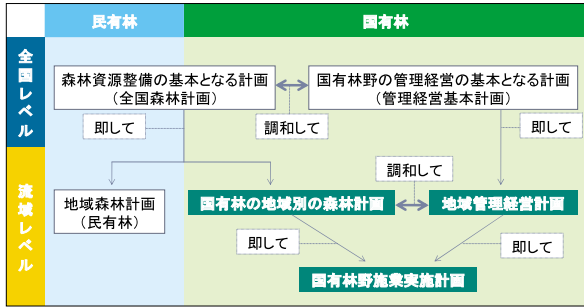
札幌市中央区宮の森三条七丁目七〇 北海道森林管理局長
(保全調整課扱い) あて
イ ファクシミリの場合
〇一―六二二―五一九四

ウ 電子メールの場合
h_hozen@rin Yamaf.go.jp

エ 持参する場合
北海道森林管理局保全調整課まで(三階)
電話、口頭では受け付けません。

意見書の締め切り
縦覧期間が満了する三月五日(水)午後五時必着。
(業務調整課)

国有林の計画体系



縦覧場所(関係する森林管理署等)

計画書(案)	森林計画区	縦覧場所			
		森林管理署等	住所	電話番号(IP及び代表)	
地域管理経営計画及び国有林野施業実施計画の計画書(案)	石狩空知	北海道森林管理局旭川事務所	旭川市神楽3条5丁目3番11号	050-3160-6310	
		石狩森林管理署	札幌市中央区南9条西23丁目1番10号	050-3160-5710	
		空知森林管理署	岩見沢市3条東17丁目34番地	050-3160-5715	
		空知森林管理署北空知支署	雨竜郡幌加内町字清月	050-3160-5720	
	上川北部	北海道森林管理局旭川事務所	旭川市神楽3条5丁目3番11号	050-3160-6310	
		上川北部森林管理署	上川郡下川町緑町21番地4	050-3160-5735	
		北海道森林管理局函館事務所	函館市駒場町2-13	050-3160-6340	
	後志胆振	後志森林管理署	虻田郡倶知安町北2条東2丁目	050-3160-5805	
	国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画の変更計画書(案)	日高	日高北部森林管理署	沙流郡日高町栄町東2丁目258-3	050-3160-5705
			日高南部森林管理署	日高郡新ひだか町静内緑町5丁目6番5号	0146-42-1615
		十勝	北海道森林管理局帯広事務所	帯広市東9条南14丁目2番地2	050-3160-6330
			十勝東部森林管理署	足寄郡足寄町北3条2丁目3-1	050-3160-5790
十勝西部森林管理署	帯広市東9条南14丁目2番地2	050-3160-5795			
十勝西部森林管理署東大雪支署	河東郡上土幌町字上土幌東3線231	050-3160-5800			
国有林の地域別の森林計画及び地域管理経営計画並びに国有林野施業実施計画の変更計画書(案)	留萌	北海道森林管理局旭川事務所	旭川市神楽3条5丁目3番11号	050-3160-6310	
		留萌北部森林管理署	天塩郡天塩町新栄通6丁目	050-3160-5725	
	留萌南部森林管理署	留萌市錦町4丁目3番8号	050-3160-5730		
	北海道森林管理局函館事務所	函館市駒場町2-13	050-3160-6340		
	渡島檜山	檜山森林管理署	檜山郡厚沢部町緑町162-28	050-3160-5810	
		渡島森林管理署	二世郡八雲町出雲町13	050-3160-5815	
上記森林計画区すべて	北海道森林管理局企画調整部保全調整課	札幌市中央区宮の森3条7丁目70	050-3160-6274		

EVENT INFORMATION

行事・イベント情報

国有林モニター会議(現地視察) 二月八日(金)
局大会議室 (藻岩国有林)

平成19年度治山・林道工事コンクール表彰式 二月十四日(木) 局長室

知床永久の森林づくり協議会 二月二十八日(木) 斜里町

道南の林業・木材産業を考える集い 三月四日(火) 渡島支庁講堂

広報「北の森林」国有林
発行 北海道森林管理局
編集 保全調整課
☎〇六四 八五三七
札幌市中央区宮の森 三条七丁目七〇
IP電話 〇五〇 三一六〇 六一七四
電話 〇一一 六二二 五三三一
FAX 〇一一 六二二 五三三五